

# エコアクション21

2017年度(期間：2017. 4. 1～2018. 3. 31)

## 環境活動レポート



2018年5月 発行

若宮商事株式会社

埼玉県深谷市上野台2060-1

【TEL】 048-573-2112

【FAX】 048-573-2813

【URL】 <http://www.wakamiyacorp.co.jp>

## 1. 組織の概要

- 1) 事業所名 若宮商事株式会社  
代表者名 代表取締役 木暮 士
- 2) 設立年月日 1970年7月1日
- 3) 資本金 1,000万円
- 4) 関連事業所  
・アルミサイクル事業部(熊谷支店及び熊谷サイクル工場)  
・メタルサイクル事業部(特殊金属ヤード)
- 5) 所在地
- 5-1) 本社及びクリーンサイクル事業部及びアルミサイクル事業部輸送・原料 埼玉県深谷市上野台2060-1
- 5-2) 関連事業所
- 5-2-1) アルミサイクル事業部熊谷支店及び熊谷サイクル工場 埼玉県熊谷市三ヶ尻3745-2
- 5-2-2) メタルサイクル事業部特殊金属ヤード 埼玉県深谷市人見263
- 6) 環境管理責任者氏名及び連絡先 代表取締役 木暮 士  
埼玉県深谷市上野台2060-1 048-573-2112  
環境管理連絡者 藤澤 康弘

## 7) 事業の概要

アルミニウム原料全般集荷溶解、アルミニウム各種二次合金の販売、アルミニウム委託精錬、一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬、一般貨物自動車運送、非鉄金属・特殊金属・製紙・製鉄原料集荷販売、建物・機械解体工事請負

## 8) 事業規模等

当社の「2015年度から2017年度まで3年間」の事業規模を以下に示す。

活動規模	単位	2015年	2016年	2017年
売上高	百万円	3,871	3,826	4,386
従業員数	人	47	45	45
延べ床面積	m <sup>2</sup>	3,371	3,371	3,371
アルミニウム二次合金生産量	t	7,918	7,957	8,026
産業廃棄物収集運搬量	t	4,055	5,188	7,855

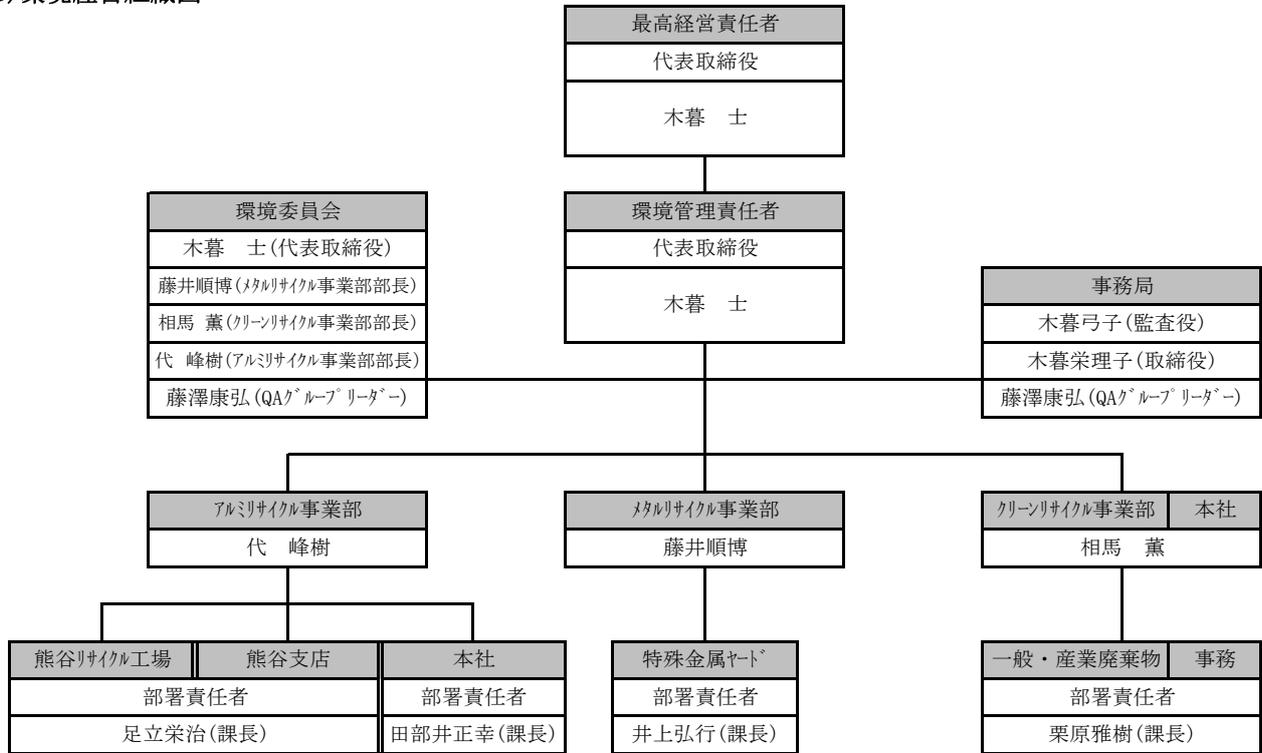
- 9) 再生資源取扱量 ステンレス 3,000.2kg 銅 595.4kg 雑品 3828.2kg

- 10) リサイクルに使用する処理施設の種類・規模 15ton前炉付反射炉1基 10tonローリング式反射炉1基 2ton回転炉1基 1ton可傾式坩堝炉2基 灰絞機1基 冷媒キルン1基 5kg塊連続铸造機1基 地金自動積重機1基 ロータリーキルン(切粉前処理装置)1基 乾式集塵機1基

## 2. 対象範囲

- 1) 認証・登録の対象活動範囲 若宮商事株式会社の全組織及び全活動とする
- 2) 環境活動レポートの対象期間及び発行年月
- 2-1) 期間 2017年4月1日から2018年3月31日の一年間
- 2-2) 発行年月 2018年5月 発行

### 3) 環境経営組織図



### 4) 収集運搬許可証

#### 4-1) 事業計画の概要

産業廃棄物の収集運搬量について、2017年度は前年度に比較して120%増加を計画目標とした。

#### 4-2) 産業廃棄物の収集運搬許可証

産業廃棄物の収集運搬許可証については、取り扱う産業廃棄物の種類を含み、以下に示す。

都道府県 市名	取得 年月日	許可番号	取り扱う産業廃棄物の種類														有効期限	
			燃え殻	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃酸	廃プラ	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラス・陶磁器等くず	鋳さい		ガレキ類
東京都	H30. 4. 7	13-00-000189	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H35. 4. 6
栃木県	H28. 5. 14	00900000189		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H33. 5. 13
茨城県	H28. 12. 1	00801000189	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H33. 11. 26
群馬県	H29. 9. 1	01000000189	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H34. 8. 31
埼玉県	H29. 3. 15	01104000189	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H34. 3. 9
福島県	H28. 9. 1	00707000189		○	○			○		○		○		○		○		H33. 8. 31
千葉県	H27. 1. 19	01200000189	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	H32. 1. 6

4-3) 一般廃棄物の許可証

一般廃棄物の収集運搬許可証を以下に示す。

	深谷市	熊谷市	行田市
許可番号	第78号	熊廃許可第57号	指令行環第49号
取扱い廃棄物の種類	一般廃棄物(ごみ)	一般廃棄物(ごみ)	一般廃棄物(事業系廃棄物)
収集運搬及び処分の別	収集運搬	収集運搬	収集運搬
許可年月日	H30. 4. 1	H29. 10. 1	H29. 5. 1
有効期限	H32. 3. 31	H31. 9. 30	H31. 4. 30
営業区域	深谷市内	熊谷市域	行田市内

4-4) 収集運搬車輛

収集運搬用保有車両を以下に示す。

用途	車種	台数	登録
収集運搬	キャブ〆オーバ	7	産廃
収集運搬	コンテナ専用車	5	産廃
収集運搬	塵芥車	3	産廃
収集運搬	清掃車	1	産廃
収集運搬	ダンプ	1	産廃

4-5) 積替保管施設

積替保管施設は無し

4-6) 2017年度産業廃棄物収集運搬量

2015年度から2017年度までの収集運搬量を以下に示す。

2017年度は、収集運搬量で前年対比151%となった。要因は個別の収集運搬量が増加した為。

今後個々の排出量の更なる減量対策が進み減少が予測される中、更なる新規開拓してゆく努力が必要となる。

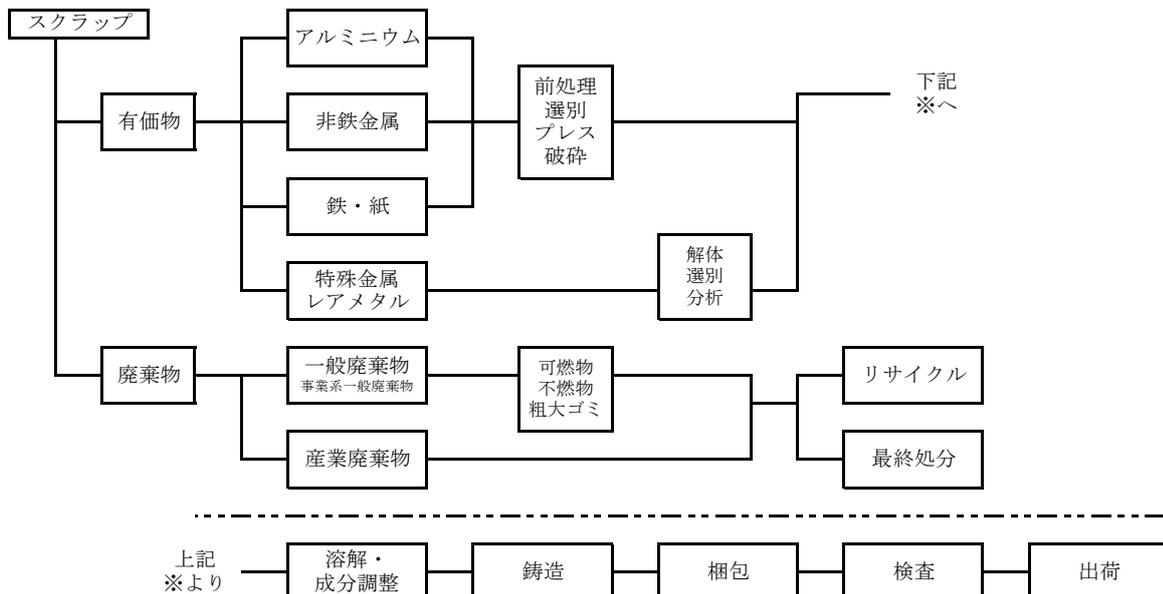
項目	単位	2015年度	2016年度	2017年度
産業廃棄物収集運搬量	t	4,055	5,188	7,855
一般廃棄物収集運搬量	t	1,071	1,404	1,385

4-7) 処理料金

4,000~6,000円/t

但し、詳細は見積りによるものとする。

5) リサイクル工程図



### 3. 環境方針

当社の環境方針を以下に示す。

2016年9月より代表取締役が交代し11月に組織形態が変わった為、環境方針を出し直した。

環境方針の内容は前回より引き継いでいるので、変化はない。

## 環 境 方 針

### 理 念

若宮商事（株）は『限りある資源だから、もっと有効に再利用する』を社是として資源リサイクル・廃棄物適正処理を通して地域社会に貢献することを基本理念にしている。

しかし、その過程において資源・エネルギーの消費、廃棄物の発生等、地球環境に様々な影響を与えていることも事実である。このことを真摯に受け止め、当社は全ての企業活動を通じて「地球環境保全」に努め、地域社会への責務を果たしていく。

### 方 針

1. 私たちのリサイクル資源を回収し、特にアルミニウムは溶解し二次合金の生産(リサイクル)をし、また、廃棄物の収集運搬等を業としている活動が、地球環境と深く関連していることを明確にとらえ、環境目的・目標・プログラムを定め、それらを必要に応じて見直し、環境経営システムと環境保全活動の継続的な改善をはかります。
2. 国、地方公共団体などの環境法規制、規則、協定などの要求事項を順守し、さらに技術的・経済的に可能な範囲で自主基準を定め、一層の環境保全に自主的・積極的に取り組みます。
3. 特に次の項目について優先的に活動し、環境保全と汚染防止に取り組みます。
  - ①資源リサイクル・廃棄物の適正処理を推進します。
  - ②大気汚染に関する施設・工程の管理・改善を徹底します。
  - ③廃棄物の排出を抑制し、分別・保管・処分等の管理を徹底します。
  - ④省エネルギー、省資源、水使用量の削減を推進します。
  - ⑤グリーン購入を推進します。
4. 従業員一人ひとりの環境保全意識の向上をはかるため、教育・啓発活動を継続的におこないます。
5. 良き企業市民として、地域社会の環境保全に努め、地域との共生をはかります。

～ この環境方針を社内外を問わずに公表致します ～

2016年11月 1日

若 宮 商 事 株 式 会 社

代表取締役社長 木 暮 士

#### 4. 環境目標

##### 1) 環境目標と環境活動計画

2016年度の環境活動計画の取組結果を基準とし、今年度及び次回の目標を纏めたものが以下の表である。

環境目標	単位	担当	環境活動計画 (達成する手段)	2016年度	2019年度	2017年度
				(基準値)	(3年後目標)	目標(基準値2016年度)
エネルギー投入量の削減 A重油 (原料投入量当り)	熊谷サイクル工場	L/t	足立栄治	139.48	132.81	132.81
		増減			4.8%減	4.8%減
エネルギー投入量の削減 軽油 (走行距離当り)	輸送・原料	L/Km	田部井正幸	0.321	0.305	0.305
		増減			5.0%減	5.0%減
エネルギー投入量の削減 軽油 (走行距離当り)	一般・産業 廃棄物	L/Km	相馬 薫	0.236	0.235	0.235
		増減			0.1%減	0.1%減
エネルギー投入量の削減 軽油 (機械稼働時間当り)	特殊金属 ヤード	MJ/h	藤井順博	139.88	139.87	139.87
		増減			0.1%減	0.1%減
温室効果ガス排出量抑制 購入電力(原料購入量当り)	本社工場	MJ/t	田部井正幸 代 峰樹	58.06	58.05	58.05
		増減			0.1%減	0.1%減
温室効果ガス排出量抑制 購入電力(原料投入量当り)	熊谷サイクル工場	MJ/t	足立栄治 代 峰樹	751.00	559.53	559.53
		増減			25.5%減	25.5%減
廃棄物の排出抑制 (裏紙の再利用等) (従業員数当り)	全社	t/人	相馬 薫 (各部署責任者)	8.67	8.66	8.66
		増減			0.1%減	0.1%減
水資源(上水)投入量削減 (従業員数当り)	本社工場	m <sup>3</sup> /人	相馬 薫	17.67	17.66	17.66
		増減			0.1%減	0.1%減
水資源(上水)投入量削減 (原料投入量当り)	熊谷サイクル工場	m <sup>3</sup> /t	足立栄治	0.214	0.213	0.213
		増減			0.1%減	0.1%減
化学物質排出量削減	熊谷サイクル工場	—	足立栄治	—	自主基準 以下	自主基準 以下
グリーン購入	全社	—	田部井正幸	—	全量適合品	全量適合品
受託産廃収集・運搬に おける環境配慮	一般・産業 廃棄物	—	相馬 薫	—	「手順」遵守	「手順」遵守

##### 2) 環境活動計画の取組結果とその評価

前項の結果を踏まえた2017年度の結果を評価したものが以下の表である。

一部「達成可能な未達」項目があるが、今年度の経済状況を考えるとほぼ達成可能になったと考えられる。

エコアクション21の環境活動も11年を過ぎ目標値のクリアが厳しくなっているが、引き続き全従業員の意識統一を図り、目標達成に向けて効果的なマネジメントシステムを運用していく。

環境目標	単位	担当	環境目標の実績と評価			備考
			2017年度			
			目標値	実績	評価	
エネルギー投入量の削減 A重油 (原料投入量当り)	熊谷サイクル工場	L/t	足立栄治	132.81	128.25	○
		増減		—	8.05%減	
エネルギー投入量の削減 軽油 (走行距離当り)	輸送・原料	L/Km	田部井正幸	0.305	0.339	△
		増減		—	5.61%増	
エネルギー投入量の削減 軽油 (走行距離当り)	一般・産業 廃棄物	L/Km	相馬 薫	0.235	0.235	○
		増減		—	0.42%減	
エネルギー投入量の削減 軽油 (機械稼働時間当り)	特殊金属 ヤード	MJ/h	藤井順博	139.87	143.16	△
		増減		—	2.34%増	
温室効果ガス排出量抑制 購入電力(原料購入量当り)	本社工場	MJ/t	田部井正幸 代 峰樹	58.05	63.65	△
		増減		—	9.63%増	
温室効果ガス排出量抑制 購入電力(原料投入量当り)	熊谷サイクル工場	MJ/t	足立栄治 代 峰樹	559.53	520.24	○
		増減		—	30.73%減	
廃棄物の排出抑制 (従業員数当り)	全社	t/人	相馬 薫 (各部署責任者)	8.66	7.8500	○
		増減		—	9.46%減	
水資源(上水)投入量削減 (従業員数当り)	本社工場	m <sup>3</sup> /人	相馬 薫	17.66	14.27	○
		増減		—	19.24%減	
水資源(上水)投入量削減 (原料投入量当り)	熊谷サイクル工場	m <sup>3</sup> /t	足立栄治	0.213	0.213	○
		増減		—	0.47%減	

環境目標	単位	担当	環境目標の実績と評価			備考	
			2017年度				
			目標値	実績	評価		
化学物質排出量削減	熊谷サイクル工場	—	足立栄治	自主基準以下	自主基準以下	○	
グリーン購入	全社	—	田部井正幸	全量適合品	全量適合品	○	
受諾産廃収集・運搬における環境配慮	一般・産業廃棄物	—	相馬 薫	「手順」遵守	「手順」遵守	○	

※評価基準： ○：目標達成 △：達成可能な遅れ ×：達成不可能（是正処置が必要）

### 3) 次年度の取組内容

「達成」の項目は継続し、「達成可能な未達」の項目は一層の努力をして目標達成する。次年度より1年毎に計画目標を設定し、今回「達成可能な未達」の項目においては目標値を前年度目標値とする。今年度より「廃棄物の排出抑制」の単位を「重量(kg)/全従業員(人)」に変更して、基準値を2016年度実績とする。

## 5. 環境への負荷実績

2015年度から2017年度までの環境への負荷実績を以下に示す。

項目	単位	2015年度	2016年度	2017年度	
温室効果ガス排出量	CO <sub>2</sub> 換算	Kg	3,941,520	4,166,369	3,961,646
	売上高当り	Kg/百万円	1,018	1,089	903
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	70.01	95.16	119.53
	一般廃棄物	t	8.05	1.05	1.01
	合計	t	78.06	96.21	120.54
	売上高当り	t/百万円	0.020	0.025	0.027
水資源投入量	上水	m <sup>3</sup>	2,596	2,506	2,457
	売上高当り	m <sup>3</sup> /百万円	0.67	0.65	0.56

注) 温室効果ガス排出量については、購入電力(東京電力)の排出係数を0.324kg-CO<sub>2</sub>/kwhとして算出した。

## 6. 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

### 1) ばい煙及びダイオキシン類の自主測定結果

2015年度から2017年度までのばい煙及びダイオキシン類の測定結果を以下に示す。

「2015年度から2017年度(3年間)のばい煙及びダイオキシン類の測定結果」

		測定部署	規制値	2015年度		2016年度		2017年度	
ばい煙	ばいじん (g/m <sup>3</sup> )	集塵機	0.20	0.00095未満	0.00095未満	0.00095未満	0.00097未満	0.00076未満	0.00098未満
	窒素酸化物 (ppm)		180 (指導値:140)	49	45	45未満	52	38	52
	いおう酸化物 (m <sup>3</sup> /h)		①1.96②3.04③0.75 ④0.61⑤5.86⑥0.609	0.032 ①	0.039 ②	0.046 ③	0.022 ④	0.012未満 ⑤	0.036 ⑥
	ばいじん (g/m <sup>3</sup> )	廃棄物焼却炉	0.25	0.065	0.15	0.035	0.09	0.028	0.083
	塩化水素 (mg/m <sup>3</sup> )		700	1.5	4.7	1.4	3.8	3.1	1.3
窒素酸化物 (ppm)	適用外 (指導値:180)		69	72	60	57	65	52	
いおう酸化物 (m <sup>3</sup> /h)	①7.71②6.25③5.92 ④5.86⑤8.31⑥5.67		0.063 ①	0.020 ②	0.026 ③	0.037 ④	0.015 ⑤	0.040 ⑥	
ダイオキシン類 (ng-TEQ/m <sup>3</sup> )	集塵機	5 (自主基準:4)	0.035		0.053		0.012		
	乾燥炉		0.017		0.013		0.10		

注) 2017年度ばい煙及びダイオキシン類の測定結果は、指導値及び自主基準を含め全て満たしていることを確認した。

## 2) 熊谷市環境部環境政策課様の任意立入検査の結果

- 2-1) 任意立入検査年月日： 2017年12月19日
- 2-2) 検査項目： ダイオキシン類
- 2-3) 検査結果： 0.0029ng-TEQ/m<sup>3</sup>N (規制値：5ng-TEQ/m<sup>3</sup>N、自主基準値：4ng-TEQ/m<sup>3</sup>N)  
検査結果は規制値、自主基準値を十分満たしている。

## 3) 埼玉県北部環境管理事務所様の任意立入検査の結果

- 3-1) 任意立入検査年月日： 2018年1月15日
- 3-2) 検査項目： ダイオキシン類、ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素、  
ガス状水銀、粒子状水銀
- 3-3) 検査結果： ダイオキシン類：0.0096ng-TEQ/m<sup>3</sup>N (規制値：5ng-TEQ/m<sup>3</sup>N、自主基準値：4ng-TEQ/m<sup>3</sup>N)  
ばいじん：0.096g/m<sup>3</sup>N (規制値：0.25g/m<sup>3</sup>N)  
硫黄酸化物：0.025m<sup>3</sup>N/h (規制値：0.6m<sup>3</sup>N/h)  
窒素酸化物：92ppm (規制値：180ppm)  
塩化水素：3.6mg/m<sup>3</sup>N未満 (規制値：200mg/m<sup>3</sup>N)  
ガス状水銀：0.15μg/m<sup>3</sup>N未満 > (規制値：50μg/m<sup>3</sup>N) (全水銀)  
粒子状水銀：0.01μg/m<sup>3</sup>N未満  
検査結果は規制値、自主基準値を十分満たしている。

## 4) 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

環境関連法規等の違反及び訴訟等はありません。

内容	結果
法規等の違反の有無	無
訴訟等の有無	無

## 7. 最高経営責任者による全体評価と見直しの結果

本年度一年間は経済的に安定していたが、来期は燃料費高騰が予想され収益力が上がらないと業績が厳しくなる。お陰様で培ったマネジメントサイクルにより、PDCAを一段と上手く回しながら対応していく事で乗り切れると確信している。

社員各々が現状把握をして目標達成可能なように業務に取り組んでほしい。

## 8. 地域活動

ごみゼロ運動等、地域の催しに対し積極的に活動している。  
また、環境美化活動日を各部署で決め、社内外の環境美化を行っている。

